

大分県立高等学校第三者評価【評価書】

大分県教育委員会

評価実施年度	平成 28 年度	学校名	大分県立 鶴崎工業 高等学校	
学校教育目標				
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
学校の組織運営	学校経営ビジョン	・時代、社会のニーズや学校の教育課題を踏まえた目指す学校像が設定できているか。 ・自己評価・学校関係者評価等を活用し、学校の抱える課題解決に向け、目標の重点化が図られているか。 ・目標達成へ向けた方策が適切に策定され、効果的に実施されているか。 ・校長の的確なリーダーシップの下、教職員と共通理解を図り、参画意識を高めているか。	・極めてよい。 ・工業高校の今日的課題を踏まえたビジョン等が明確に設定され、校長のリーダーシップの下に学校経営が展開されている。 ・校長の経営ビジョンが目標達成と運動し、全教職員に理解され効果的に展開されている。 ・県立学校としての社会ニーズに十分応えている。	・学校教育目標「大分県のものづくり産業を担う優秀な人材・社会に定着できる人材を育成する」を達成するために、教諭のあるべき姿をより明確にした学校経営に取り組む。
	組織的運営・責任体制	・校務分掌が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているか。 ・教育目標、学校評価実施計画に沿ったものになっているか。 ・目標達成に向けたPDCAサイクルが定期的実施され、検証・改善が行われているか。	・良い。 ・組織的な運営・責任体制が整備されており、学校目標、分掌組織、学校評価の関連性が見てとれ、PDCAサイクルも十分に機能していることが窺える。 ・今後は、校長の経営理念が分掌組織全体を通して貫かれているかの検証が必要と思われる。	・学校教育目標達成に向けて引き続きミドルリーダーの育成に取り組む。 ・運営委員会を充実させるため、各主任を中心に各課題に対する具体的な事前打ち合わせを必須化し、組織として取り組む体制を構築する。
	服務監督・危機管理体制	・内規、危機管理マニュアル等は整備されているか。その内容は適切か。 ・事件・事故に対して適切な対応がなされているか。 ・服務規律研修が定期的に計画され、効果的に実施されているか。	・良い。 ・校内の危機管理体制は確立され、マニュアルも適宜改訂しており整備されている。 ・生徒の通学区域が広く、自転車通学生生に対する指導体制を広範囲にするなどの対策を講じているが、今後も事故防止対策の一層の強化が望まれる。	・危機管理マニュアルの周知徹底。 ・基本安全行動「ポケットに手をいれたままにしない」の趣旨を生徒に理解させ、安全意識を醸成させる。 ・登下校指導を改善し、自転車の事故防止対策を強化する。
	家庭・地域との連携体制	・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握するための取組を行っているか。 ・ホームページの活用をはじめ、学校便りの発行など、保護者や地域への情報の伝達・公開が適切に行われているか。	・良い。 ・地域の小・中学校で「ものづくり教室」を実施したり、学校説明会や報道機関を通しての情報発信が積極的に行われている。 ・部活動生徒のボランティア活動も盛んに行われている。 ・今後もH.Pの更新やパンフレット等を積極的に活用し広報の充実にも努めたい。	・地域の小・中学校で実施している「ものづくり教室」や体験入学、学校説明会を充実させる。 ・学校HPの充実を図り、リアルタイムで学校情報が提供できるように努める。 ・読み手が必要な情報を得ることが出来るパンフレットに改善する。
学習指導進路指導	授業の活性化	・1時間の授業の中で、生徒が集中して意欲的に学習に取り組んでいる姿勢が見られるか。 ・教師の熱意が伝わり、授業技術が適切で、ICT等活用したわかりやすい授業が行われているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図り、生徒の活発な授業参加が見られるか。 ・授業研究を計画的に実施することなどを通じ、授業改善に学校全体として取り組んでいるか。	・良い。 ・「授業力向上委員会」が十分に機能しており、互見授業も充実してきている。その成果として授業アンケートの結果では生徒の理解度が高くなっている。 ・教師の授業に対する工夫・改善が見られ、生徒の授業態度も良好であった。 ・今後は、授業の目標の提示や板書等の工夫など、授業の質を高めることが求められる。	・研究授業の実施方法については、指導教諭を責任者として位置づけ、折り一層の改善を図る ・評価方法の工夫・改善、ICTの効果的な活用法、県の考えを周知する内容の研修会を開催する。
	進路指導体制	・学校全体として、生徒の発達段階や学力、進路希望に即し3年間を見通した適切な体制が整備されているか。 ・自分らしい生き方、在り方考えるキャリア教育の視点を持ち、組織的に取り組んでいるか。 ・自らの進路に対し、相談したり、資料や情報を調べたりできる体制が整備されているか。	・極めてよい。 ・生徒の希望、適正に応じた進路達成のための体制が組まれている。生徒の進路意識も高い。 ・高校3年間のみならず、卒業後も意識したキャリア教育の視点に立った取組が見られた。	・これまで行ってきた進路指導部、学科、学年の3者の連携のとれた進路指導や、全職員での面接指導等の取組を継承・発展させ、生徒の希望進路決定100%を継続していく。特にガイダンスを機能を強化していきたい。
	個別指導	・生徒の進路希望達成に向けた、個に応じたきめ細かい進路指導が行われているか。 ・理解が不十分な生徒への補充学習や、学習意欲の高い生徒に対する発展的内容の指導がなされているか。 ・各種資格取得に向けた指導など、生徒のニーズに応じた学習指導がなされているか。	・良い。 ・多様な生徒の現状を踏まえた、肌理の細かい進路指導が行われている。 ・資格取得率の低下は気になるが、多様な生徒のニーズに応じた学習指導や資格指導が実践されている。	・英数国を中心とした「毎日課題」、資格取得の指導等を行い、生徒個々の能力を伸ばし進路実現を図る。 ・ものづくりコンテストや難易度の高い資格・検定については企業との連携も図り、高度な技術技能を指導していく。
	学力・進路の達成状況	・学年が進行するほど、生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。 ・学年が進行するほど、進路が明確になり、主体的に進路選択をすることができているか。 ・生徒の第一志望による進路目標の達成ができているか。	・良い。 ・学年の進行とともに、進路がより明確になり、将来の自身の姿を想像できる生徒が増えていることが評価できる。 ・3年生全員の進路が決定し、キャッチフレーズの「社会とのつながり」が達成されている。 ・多様な生徒の影響もあると思われるが、学習習慣と学力定着が今後の課題である。	・インターンシップ、工場見学、外部講師授業、資格試験の取組、進路ガイダンスを含め、授業や特別活動など、学校内の様々な活動を通してキャリア教育を推進し、生徒の進路目標の達成を図る。
生徒指導特別活動等	心の教育	・相手の人格を尊重し、豊かな人間関係を構築できる生徒を育成するための指導が行われているか。 ・社会の一員としての意識を身につけた生徒を育成するための指導が行われているか。 ・命の大切さなどについての指導が行われているか。	・極めてよい。 ・人権学習や命を考える教育が積極的に展開され、心豊かな人間の育成と社会性を身に付けるための教育が実践されている。 ・社会の一員としての意識付けが伝統的に行われており、生徒の学校生活の満足度は高く、誇りを持っていることが窺えた。	・相手を尊重し、自分を律する事が出来る生徒を育てる。 ・生徒、教職員、保護者が連携した登下校指導を充実させ、人間関係形成の基本となる「挨拶」励行の指導を継続する。
	生徒指導・教育相談 ・特別支援教育	・学校の教職員全体で生徒の状況についての理解を共有し、生徒指導に取り組む体制が整備されているか。 ・生徒理解、生徒指導のための面談・相談が計画的に行われ、実態に応じた指導が行われているか。 ・いじめ防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ問題に対して適切な対応がなされているか。 ・特別な支援を必要とする生徒の実態把握や、具体的な教育支援を検討する体制が整備されているか。	・極めてよい。 ・いじめや不登校防止のために、ミドルリーダーを中心に分掌、学科、学年のマトリクスが十分機能し、困りを抱える生徒に寄り添う教育活動が見られた。 ・今後は保護者との連携強化や合理的配慮に関しても、全教職員の共通理解を図り推進してほしい。また、スクールカウンセラーの配置も望まれる。	・日常的な生徒観察やいじめアンケートを通して生徒の状況把握を行う。また職員間で生徒情報を共有し、早期の問題解決に努める。 ・人間関係がうまく構築できない生徒に対する指導を充実する。 ・合理的配慮についてPTA総会等を通じて保護者に周知して、組織的な対応を進める。
	特別活動・部活動	・学校行事、生徒会活動等が生徒や学校、地域の実態等に応じて工夫して取り組まれているか。 ・部活動が生徒の主体性を促し、心身の発達に応じたものとなっているか。	・極めてよい。 ・部活動への加入率が高く、その成果は全国レベルに達している。 ・部活動の生徒が必要に応じて地域の行事等にも参加して学校の存在感を示している。 ・特別活動や部活動が生徒の過度な負担にならないように、十分に注意を払わなければならない。	・部活動への高い加入率を維持していく。部活動を通して生徒の自己肯定感・達成度を醸成し、社会人基礎力の向上に繋げたい。 ・教科の学習や資格取得に向けた学習、部活動、ボランティア活動等がバランス良く行えるよう、生徒一人ひとりへ配慮した指導にこれまで以上に取り組む。
	保健・安全管理	・生徒の保健管理のための体制が整備され、保健指導・保健相談が実施されているか。 ・日常の健康観察や、疾病予防、児童生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断が実施されているか ・校舎や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ・家庭や地域の関係機関、団体との連携を図りつつ、生徒の安全を確保するための具体的な取組が行われているか。	・良い。 ・健康管理面での講話を年数回実施しており、保健指導の推進が図られている。 ・全クラスの出入り口に、感染予防のための消毒液が設置されており、生徒の健康意識の高揚にもつながっている。 ・登下校時の事故多発地点を校内に掲示するなど、注意を促している。今後も継続してほしい。	・健康管理について、まずは予防することを徹底して指導し、健康意識を高めていく。 ・9割を超える自転車通学生生への交通指導を1年次当初より強化し、登下校での交通事故を防ぐ。特に登下校指導では学校、家庭が一体となった交通安全教育に務める。
総合評価	<p>・前回の学校訪問での指摘事項に対し、具体的かつ適切な指示で改善に努めていた。</p> <p>・生徒アンケートの学校生活に対する満足度は高く、学校生活が充実していることが窺える。その背景には、校長の明確な経営ビジョンの下、学校教育目標の達成に向けた組織運営体制が横断的、多角的に機能していることがある。</p> <p>・喫緊の課題である授業改善においても互見授業を積極的に推進し、生徒・教員アンケート等を効果的に活用し、組織的な展開が成されている。生徒の理解度も確実に向上していることが窺えた。</p> <p>・進路、生徒、特別活動も充実しており、特に校内での生徒の挨拶は立派で高校生らしい清々しさを感じた。学校全体が非常に落ち着いている。</p> <p>・生徒を刺激し奮い立たせる意味で、少し高いハードル・壁を意識的に設けることも必要である。特に学力面や資格において望まれる。</p> <p>・校長の学校経営ビジョンが各教員にどの程度で理解され、それを踏まえて各教員が学校教育目標と関連づけ教育活動を展開しているかを検証するPDCAサイクルも今後は必要である。非常に高い実践力を備えた学校組織であり、今後の更なる向上を期待する。</p>			
校長コメント (次年度の改善策)	<p>・皆勤、精勤率が高く、部活動入部率も9割を超え、生徒が、学校生活を楽しみにしていることが、鶴崎の強みである。この強みを一層強化することが、学校経営の要諦である。</p> <p>・学校経営ビジョンは、ミドル層を中心に理解が広がっているが、学科間のバラツキ、教諭間のばらつきは大きく、授業力の向上、改善などの具体的施策を通じて、より一層理解を浸透させていく必要がある。生徒の質の変化により前向きに取組、資格取得のあり方、多様な進路に 従来ベースの考え方にこだわらない学校全体の取組を加え、教員の質向上も図っていく必要がある。</p>			